

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	畦内 一夫
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	塗師 亜紀子

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	823,786 (R1)	400,646 (R2)	D
施策2	いしかわの優れた文化の裾野拡大	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	121,012 (R1)	31,681 (R2)	D

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価	
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
施策1	課題 「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	823,786 (R1)	400,646 (R2)	1 「加賀百万石文化めぐり」開催事業費	外国人・一般県民	41,000	15,692	-	見直し
							2 「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」普及啓発事業費	一般県民	5,200	5,200	B	継続
							3 いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	11,500	6,780	B	継続
		美術館入館者数	人	472,500 (R4)	403,763 (R1)	253,363 (R2)	4 美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	49,589	17,861	-	継続
							5 文化財保存修復工房魅力発信事業費	一般県民	1,400	1,054	B	継続
		歴史博物館入館者数	人	165,000 (R4)	151,807 (R1)	97,238 (R2)	6 歴史博物館特別展示費	一般県民	39,263	18,404	-	継続
		石川四高記念文化交流館入館者数	人	200,000 (R4)	201,861 (R1)	16,616 (R2)	7 石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	16,019	16,797	-	継続
		能楽堂入館者数	人	54,000 (R4)	48,445 (R1)	20,908 (R2)	8 いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	6,000	5,596	B	継続
		音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	121,012 (R1)	31,681 (R2)	9 伝統芸能技能向上支援事業費	一般県民	4,600	4,200	B	拡大
再 いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生						11,500	6,780	B	継続		

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	畦内 一夫
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	塗師 亜紀子

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	823,786 (R1)	400,646 (R2)	D
施策2	いしかわの優れた文化の裾野拡大	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	121,012 (R1)	31,681 (R2)	D

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)	(年度)						
施策2	課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	823,786 (R1)	400,646 (R2)	10 「いしかわジュニアアートステージ」開催費	高校生以下	8,000	8,000	B	継続
								11 国民文化祭開催準備事業費	一般県民	8,000	1,234	B	拡大
			芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,200 (R2)	11,797 (R1)	1,633 (R2)	12 文化活動支援事業費・若手芸術家活動支援事業費	一般県民	80,000	68,492	A	継続
								13 子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,300	2,299	B	継続
								14 子ども芸術鑑賞推進事業費	小中学生	5,232	0	-	継続
								15 県民移動能実施事業費	小中学生	3,000	1,500	B	継続
			音楽堂入場者数	人	258,000 (R4)	260,592 (R1)	50,282 (R2)	16 障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	一般県民	1,000	84	B	継続
								17 音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	B	継続
								18 地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,000	10,000	B	継続
								再 子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,300	2,299	B	継続
					再 「いしかわジュニアアートステージ」開催費	高校生以下	8,000	8,000	B	継続			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名「加賀百万石文化めぐり」開催事業費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令	いしかわ文化振興条例		
	計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職・氏名	専門員	高橋峻也		
者	電話番号	076 - 225 - 1371	内線	3856	

事業の背景・目的
 2020年は国立工芸館の開館や鼠多門・橋の完成等により、これまで以上に、外国人をはじめとした観光客の増加が見込まれ、本県文化の魅力を国内外に発信する好機であるため、本県ならではの多彩な文化イベントを年間通じて切れ目なく展開する。

- 事業の概要**
- (1) 本物志向の外国人向け文化体験イベントと施設ガイドツアーの定期開催
 <時期> 令和2年7月から令和3年3月(9ヶ月間)
 <開催方法> 毎週末いずれかの体験イベント等を実施
 <会場> 歴史博物館、加賀本多博物館、美術館広坂別館、伝統産業工芸館
 <料金> 1体験 1,000円
 <内容> 書道体験(美術館広坂別館)
 武士体験(歴史博物館)
 能楽体験(能楽堂)
 金箔体験(伝産館)
- (2) 外国人向け伝統芸能鑑賞ガイドシステムの導入
 ① 能楽鑑賞(場所: 県立能楽堂)
 ・鑑賞機会: 観能のタベ 夏: 7月～8月(全9回) 冬: 1月～3月(全5回)
 ・ガイドシステム: 英語の解説が流れる「タブレット」を貸出(30台/回)
- ② 茶屋文化体験(場所: 県立音楽堂和室)
 ・鑑賞機会: 金沢芸妓の舞 令和2年10月～2年3月(通常公演全33回)
 ・ガイドシステム: 英語の解説が流れる「音声ガイドシステム」を貸出(20台/回)
- (3) ミュージアムウィークの拡充
 年間を通じて兼六園周辺文化の森に賑わいを創出するため、「回遊性の向上」と「夜の魅力の創出」の観点から取り組みを強化
- ① 回遊性の向上
 ・伝統工芸制作体験ワークショップやミュージアムコンサートの定期開催
 ・美術館、歴史博物館、国立工芸館の特別展を学芸員の解説つきで巡るツアー
 ・国立工芸館、歴史博物館、四高記念文化交流館などの歴史的建築物を解説付きで巡る探訪ツアーなど
- ② 夜の魅力の創出
 ・国立工芸館、美術館、歴史博物館のライトアップ
 ・国立工芸館を中心に文化の森を光で彩るデジタル掛け軸の実施 など

これまでの見直し状況
 R2～: 「外国人向け伝統文化魅力発信事業」、「外国人向け伝統芸能鑑賞ガイドシステム導入事業」、「兼六園周辺文化の森『四季の文化回廊』事業」を統合し、「『加賀百万石文化めぐり』開催事業」に事業名称を変更。

施策・課題の状況						
施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開	評価	D			
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	913,000	906,757	862,986	976,144	823,786	400,646

事業費						
(単位: 千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	19,000	19,000	24,000	36,000	41,000
	決算	19,000	19,000	23,858	35,823	15,692
一般	予算	19,000	9,500	12,000	18,000	20,500
財源	決算	9,500	9,500	11,929	19,418	7,846
事業費累計		123,576	142,576	166,434	202,257	217,949

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p>—</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により事業の有効性についての評価が困難</p> <p>※外国人向けの体験イベント等を中止するなど、多くのイベントを実施できなかった。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p>見直し</p> <p>R2年10月に国立工芸館が開館したことを契機に、国・県・市の文化施設が連携しながら、多彩なイベントを国際北陸工芸サミット開催期間中に集中して開催することとし、事業名も「日本・いしかわの『文化百工』魅力発信事業」に改め、本県の魅力ある工芸文化を県内外に発信していく。</p> <p>※外国人向け事業については、コロナの影響のため、R3年度の実施を見送り、国の入国規制等の情報を収集しながら今後検討していく。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」 普及啓発事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職・氏名	主事 滝沢 香織			
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3845			

事業の背景・目的
 県民の文化意識の向上を図るため、「いしかわ文化の日」及び「いしかわ文化推進期間」の期間中、各種イベントの集中実施及び各施設・市町と連携した一体的なPRにより、より多くの県民が文化に親しむことのできる機会を創出し、文化施設のさらなる利用促進と県民の文化意識の向上を図る。

事業内容

(1) 「いしかわ文化の日」普及事業 (10月18日(日))

ア いしかわ文化の日記念イベントの開催

- ・会場： 石川こまつ芸術劇場うらら 大ホール (小松市)
- ・内容： ①オープニング公演
②知事挨拶
③記念講演

<その他>
文化体験コーナーを設置 (お茶、工芸、生け花など)

イ 文化施設の県民入場無料の普及・啓発

- ・県内文化施設の当日県民入場無料化
- ・啓発チラシの作成、配布

(2) 「いしかわ文化推進期間」普及事業 (10月18日(日)～11月3日(火・祝))

ア 金沢・加賀・能登の周遊を促すスタンプラリーの実施

- ・県内文化施設来場者を対象としたスタンプラリーを実施
- ・複数の文化施設来場者に景品を交付

イ 協賛事業イベントパンフレットの作成

- ・期間中に実施される県内の文化イベント情報を掲載したパンフレットの作成、配布
- ・文化施設、観光施設、商業施設等に設置

施策・課題の状況							
施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開					評価	D
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開						
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	913,000	906,757	862,986	976,144	823,786	400,646	
事業費							
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	6,500	6,500	6,500	5,200	5,200	
	決算	6,500	6,500	6,500	5,200	5,200	
一般	予算	6,500	6,500	6,500	5,200	5,200	
	決算	6,500	6,500	6,500	5,200	5,200	
財源	決算	6,500	6,500	6,500	5,200	5,200	
事業費累計		11,500	18,000	24,500	29,700	34,900	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性	(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりスタンプラリー・協賛事業は中止したものの、「いしかわ文化の日」には110の文化施設を無料化することで、4万人を超える県民の施設利用があったほか、記念イベントの参加者アンケートでも好意的な意見が多く、県民の文化意識の向上を図ることができた。				
			<いしかわ文化の日における無料化対象施設の入館者数> R2:43,314人(R1:60,700人)				
今後の方向性	(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	「いしかわ文化の日」記念イベントについては、本県ゆかりの文化人を招いた講演や地元で活躍する文化団体等の公演を開催するなど、県民の文化意識の向上に資するよう趣向を凝らしたイベントを開催する。 また、「いしかわ文化推進期間」においては、文化施設ガイドの内容についても充実を図り、県民の文化に親しむ機会を増やすことで、いしかわ県内全域の文化活動を一層盛り上げていけるよう取り組んでいく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令・計画等	いしかわ文化振興条例		

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主任主事 浅井 圭一郎			
	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847			

事業の背景・目的
 子どもたちが本県の文化に深く親しむことは、本県文化の振興を図っていく上での礎ともなる重要な施策であるため、兼六園周辺文化の森を中心に、県内の様々な文化施設において、小・中学生を対象とした多彩な文化体験メニューを提供し、本県の質の高い「本物の文化」の奥深い魅力や真髄を五感を通じて体感してもらおう。

事業の概要

(1) 体験内容
 美術館、歴史博物館の文化施設のほか、図書館や生涯学習センターにおいて、伝統芸能・工芸や音楽、美術など計200以上の体験メニューを提供

①伝統芸能
 ・能楽(能、仕舞、狂言)
 ・その他伝統芸能(三味線、箏、太鼓、日本舞踊、人形浄瑠璃)

②伝統工芸
 ・焼き物・器づくり(ろくろ回し、絵付け)
 ・塗り物(蒔絵、金箔)
 ・木工芸(組子細工、竹細工)

③音楽
 ・洋楽器演奏(ヴァイオリン、フルート、トランペット)

④美術
 ・芸術(絵画、彫刻、壁画)

⑤その他
 ・歴史・文学(江戸時代の帳面づくり、朗読会)
 ・生活文化(茶道、華道、着付け)
 ・文化財・博物館学(子ども一日学芸員、修復体験)
 ・郷土の文化(和菓子作り、朗読会)

(2) いしかわ子ども文化体験チャレンジスクールの実施
 上記の体験内容を対象メニューとしたスタンプラリーを実施し、参加実績に応じて称号と記念品を付与

これまでの見直し状況
 平成27年度に行った「いしかわ子ども伝統芸能チャレンジ推進事業」で実施した伝統芸能体験に加え、音楽や伝統工芸などの100を超える多彩な文化体験を提供することとした。

施策・課題の状況								
施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開					評価	D	
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開							
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人	
	目標値	現状値						
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	913,000	906,757	862,986	976,144	823,786	400,646		
		指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人
	目標値	現状値						
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	112,000	108,895	139,645	111,603	121,012	31,681		
事業費								
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
事業費	予算	12,000	12,000	12,000	11,500	11,500		
	決算	11,281	11,732	11,655	10,782	6,780		
一般	予算	6,000	6,000	6,000	5,750	5,750		
財源	決算	5,641	5,866	5,828	5,391	3,390		
	事業費累計	13,091	24,823	36,478	47,260	54,040		
評価								
項目	評価	左記の評価の理由						
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により一部中止等したものの、兼六園周辺文化の森を中心とした文化施設において、子どもを対象とした多彩な文化体験メニューを提供し、伝統芸能をはじめとする幅広い分野に興味を持ち始めるきっかけを作ることにより、文化の裾野の拡大に寄与した。 <参加者数> R2:延べ5,796人(R1:18,616人) <メニュー数> R2:151メニュー(R1:227メニュー)						
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	引き続き、子どもたちにより人気の高い文化体験メニューの充実を図ることで、各文化施設の入館者数の増加、ひいては、県民が文化に親しむ機会の充実を図る。						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度 S58	事業終了予定年度	作 組 織 県立美術館
	根拠法令・計画等 いしかわ文化振興条例		成 職・氏名 主幹 一木 勉 者電話番号 076 - 231 - 7580 内線 6510

1 事業の目的

美術に対する理解を深めるため、特定のテーマに基づく作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。
また、こうした場を提供しつつ、兼六園周辺文化の森に立地する特長を生かし、憩いの空間として県内外のお客様に広く親しまれる美術館となることを事業の目的とする。

2 事業の概要

(1) かの・すがた・こころ -いしかわゆかりの肖像-

- ① 会 期 : 令和2年4月19日～5月17日 (会期 29日間)
- ② 内 容 : 石川の近代美術は、終戦直後の現代美術展の開催、金沢美大の開校もあって、他県には類をみない発展を遂げた。その先頭に立ってリードした宮本三郎・高光一也のもと石川には肖像を得意とする画家・彫刻家が数多く生まれた。肖像を通して石川の近代美術を探る。

(2) 没後35年 鴨居玲 -静止した刻-

- ① 会 期 : 令和2年6月20日～7月19日 (会期 30日間)
- ② 内 容 : 没後も多くのファンを擁し、今も開催要望が高い鴨居の回顧展。代表作の「教会」を大々的に取り上げるなど従来にない趣向で展示。師の宮本とは異なる世界の広がりを展開する。

(3) 加賀百万石文武の誉れ -歴史と継承-

- ① 会 期 : 令和2年7月25日～8月30日 (会期 37日間)
- ② 内 容 : 加賀前田家の歴代藩主は、武人であるとともに文化にも深い関心を寄せ、金沢では加賀文化の確立とともに美術工芸の花が開いた。現在当地に伝わるもののほか、尊経閣文庫や文化庁などかつて加賀の地を彩った珠玉の文化財を公開する。

(4) うるはしきもの・めでたきわざ -北陸の芸術院会員・人間国宝-

- ① 会 期 : 令和2年11月8日～12月20日 (会期 43日間)
- ② 内 容 : 北陸で開催した「国際工芸サミット」の締めくりに北陸工芸の魅力を紹介する。その集大成として工芸を基軸に、本物の日本文化が息づく北陸を一体感をもって世界に発信する。

(5) 花木にみる日本美の心

- ① 会 期 : 令和3年1月4日～2月7日 (会期 35日間)
- ② 内 容 : 花木草花を題材とする美術工芸品は、その題材の明快さや日本人の感性を表現するにふさわしいものであったことから、古くから流行し多くの作品が残されてきた。本展では日本人が自然との間で織りなした美意識を紹介し、和の心に迫る。

施策・課題の状況

施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開	評価	D
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開		
	指標	美術館入館者数	単位 人
	目標値	現状値	
	令和4年度	平成28年度	平成29年度
	472,500	467,339	433,334
		平成30年度	令和元年度
		529,858	403,763
		令和2年度	253,363

事業費

(単位: 千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	20,763	20,763	20,763	20,763	49,589
	決算	19,921	19,749	20,251	14,475	17,861
一般	予算	5,063	8,847	8,847	8,847	8,847
財源	決算	13,106	9,286	7,868	8,349	7,962
事業費累計		552,126	571,875	592,126	606,601	624,462

評価

項目	左記の評価理由	
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	-	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により事業の有効性についての評価が困難 ※(1)「かの・すがた・こころ」展、(3)「加賀百万石文武の誉れ」展、(4)「うるわしきもの・めでたきわざ」展をR3年度に延期)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継 続	新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、令和2年度から延期となった展覧会の開催を目指すほか、来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することにより、コロナ禍においても入館者数の増加、来館者満足度のより一層の向上を目指す。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化財保存修復工房魅力発信事業費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度		作 成 者	組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		職・氏名		主事 中村 文佳	電話番号

事業の背景・目的

これまで積み重ねてきた修復の実績や石川の高い修復技術を、県内・全国に向けて積極的に発信し、石川県独自の施設として更なる発展を目指す。

事業の概要

文化財保存修復工房、および隣接する県立美術館広阪別館(旧陸軍第九師団長官舎、H28国登録有形文化財)において、各種事業を実施。

① 体験イベント等の充実

- ・特別実演
修復技術者が作品の解説や修復内容を実演も交えて紹介
- ・子ども修復体験
- ・大学生向けワークショップ
- ・「寒糊吹き」の実演・展示解説

② 修復工房セミナーの開催

外部講師(第一線で活躍する専門家)を招いてセミナーを実施。文化財の適切な管理・修復方法について、県内の文化財関係者に向けた普及啓発を行う。

③ 修復工房活動報告冊子の作成・配布

リニューアルオープンからH28年度の工房における具体的な修復実績等をまとめた冊子を、引き続き博物館・美術館や寺社等、文化財関係者への配布する。また、H29～R1年度の具体的な修復実績等をまとめた冊子を新たに作成し、同様に配布する。

施策・課題の状況						
施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開				評価	D
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開					
	指標	美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	472,500	467,339	433,334	529,858	403,763	253,363
事業費						
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	2,000	4,000	1,400	1,400	1,400
	決算	1,906	4,000	1,372	1,115	1,054
一般財源	予算	2,000	2,000	700	700	700
	決算	952	2,000	706	557	527
	事業費累計	1,906	5,906	7,278	8,393	9,447
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、外部専門家のセミナーは中止したものの、修復実績のパネル展示やこども見学ツアー等のイベントを通じて、本県の高い文化財修復技術や専門的な情報を発信した。 また、工房の利用促進を図るため、リニューアルオープン後(H29～R1年度)の修復実績等をまとめた冊子を作成し、文化財関係者へ配布した。 <修復工房入館者数> R2:16,276人(R1:37,099人) <修復実績> R2:43件(R1:37件)				
今後の方向性	継続	(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか) 体験イベントやセミナーの開催、作成済の活動報告冊子の配布を通して引き続き情報発信に努めるとともに、R2年度の修復実績等をまとめた冊子を作成・配布することで、更なる魅力発信や利用促進に取り組む。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館特別展示費	事業開始年度 S 62	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等 いしかわ文化振興条例	

作	組	歴史博物館
成	職・氏名	総務課長 粟 知之
者	電話番号	076 - 262 - 3236 内線 6511

事業の背景・目的
 独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い、県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となることを目的としている。

(1) 春季特別展
 テーマ:「加賀藩の江戸屋敷一本郷邸の儀礼とくらしー」
 時 期:令和2年4月25日(土)～6月7日(日) 44日間
 主 旨:江戸時代、参勤交代制度の確立と前後して、政治の中心地である江戸には諸大名の屋敷が整備される加賀藩においては本郷の屋敷跡(現在の東京大学)が、江戸時代の大部分を通じて江戸での拠点として機能する。そこで本展では、本郷邸が歴史の表舞台に出る契機となった寛永6年(1629)の将軍家光・大御所秀忠の御成や、前田家13代斉泰の正室・溶姫の輿入れに注目し、江戸の大名屋敷ならではの機能に迫る。また、東京大学構内で出土した豊富な考古資料を基に、江戸での加賀藩邸の暮らしもあわせて紹介する。

(2) 夏季特別展
 テーマ:「大加州刀展」
 時 期:令和2年7月11日(土)～8月30日(日) 51日間
 主 旨:日本刀は、日本民族特有の精神文化が生み出した世界に比類ない芸術の精華であり、我が国の貴重な文化遺産として今日高く評価されている。本展では、このように加賀の地で活躍した刀工にスポットをあて、いわゆる加州刀を系譜別、年代別に俯瞰するもので、その魅力の神髄に触れることのできる恰好の機会である。併せて腹巻と加賀具足・兜・袴の一品も公開する。

(3) 秋季特別展
 テーマ:「アトウイー三つの海とアイヌ文化ー(仮称)」
 時 期:令和2年9月26日(土)～11月29日(日) 65日間
 主 旨:アイヌと石川県の交流を示す工芸品が近年相次ぎ確認されている。輪島市や白山市ではアイヌが神に捧げていた工芸品が神社で発見された。またアイヌの側では、神事に使う神聖な器に輪島塗が利用されていた可能性が出てきた。北前船を介し、アイヌと石川県は工芸文化の交流をもってきたのである。本展では、アイヌ文化振興財団ほか北海道内の博物館が所蔵する海にかかわる工芸品を中心に、かつ石川県や北陸地方に伝来するアイヌ関係資料を一堂に紹介し、先住民をめぐる壮大な交流の歴史を紹介するものである。

施策・課題の状況							
施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開					評価	D
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開						
	指標	歴史博物館入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	165,000	164,597	155,586	174,753	151,807	97,238	
事業費							
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	27,805	35,365	31,352	37,136	39,263	
	決算	27,165	35,956	28,424	36,200	18,404	
財源	予算	9,473	19,081	12,506	12,115	12,115	
	決算	6,886	19,903	21,411	21,387	12,915	
事業費累計		258,558	294,514	322,938	359,138	377,542	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	—	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により事業の有効性についての評価が困難 ※(2)「大加州刀展」をR3年度に、(3)「アトウイ」展をR4年度以降に延期)					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、令和2年度から延期となった展覧会の開催を目指すほか、今後も石川県の歴史や文化の魅力を様々な視点から発信するとともに、多くの来館者から満足が得られるよう事業実施の工夫に努めていく。 ・県民の興味を引くようなテーマの設定 ・SNS等の活用による広報 ・来館者アンケートによる利用者ニーズの把握と特別展への反映					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川四高記念文化交流館事業費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度		作 組 織	石川四高記念文化交流館	
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	専門員 山岸 吉輝	
					者 電話番号	076 - 262 - 5464	

事業の背景・目的
 石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々に利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

事業の概要

1 石川四高記念館
 ・施設の概要
 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置

・主な事業
 常設展示(4室)
 企画展の実施
 「四高ゆかりの記念めぐり」
 石川四高記念文化交流館写真コンテスト
 三文豪館とのスタンプラリー
 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年4回) など

2 石川近代文学館
 ・施設の概要
 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館(公益財団法人石川近代文学館へ事業を委託)

・主な事業
 常設展示(8室)
 企画展の実施
 ○「画業40周年記念原画展 四季彩彩ー少女漫画家 波津彬子の10年ー(4/4~3/14)
 県内在住で、泉鏡花作品をはじめ、日本文化への造詣が深い少女漫画家、波津彬子氏の作品を4期に 分け、展示する

○「北陸新幹線金沢開業5周年記念 列車にのってー旅と文学ー」 (5/20~8/16)
 県ゆかりの作家が異郷を描き出した旅の文学と、その旅の軌跡、当地を旅した作家が記す石川の様子などを紹介する

○「百工比照の国の物語ーいしかわの文学と工芸」 (9/19~11/23)
 石川ゆかりの作家による工芸を題材とした小説、石川県の工芸の素晴らしさを伝える作品、作家愛用の工芸品等を展示する

○「生誕150年記念 加賀の三たろう IN 石川近代文学館」 (1/9~3/21)
 加賀の三たろう(西田幾多郎、鈴木大拙(鈴木貞太郎)、藤岡作太郎)が生誕150年を迎えるのを記念し、関連資料を一堂に展示する

ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の開催

施策・課題の状況						
施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開				評価	D
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開					
	指標	石川四高記念文化交流館入館者数		単位	人	
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	200,000	199,458	201,908	202,803	201,861	16,616

事業費						
(単位:千円)						
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	16,137	16,137	17,137	16,019	16,019
	決算	12,778	12,296	13,649	12,999	16,797
一般	予算	12,517	12,517	13,517	12,519	12,519
財源	決算	10,099	9,489	11,455	10,731	15,486
事業費累計		116,783	129,079	142,728	155,727	172,524

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	—	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により事業の有効性についての評価が困難 ※新型コロナウイルスの感染拡大によるR2年4~5月の臨時休館などの影響で、多目的利用室の貸館が制限されたことや、一部イベントを中止等したことにより、入館者数が大幅に減少した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継 続	企画展の実施や、そのテーマにあわせた朗読会等のイベントや特別展示を通じてアピールするほか、機をとらえた常設展の展示替えなどを行い、館の魅力を高めていく。 また、県内外の小中学校、旅行代理店、近隣の宿泊施設などにも積極的に広報活動を行い、館の存在をアピールしていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主任主事 三浦 奈緒美			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3854			

事業の背景・目的
 定期的に能楽を上演、鑑賞及び体験する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

事業の概要
内容

- 1 能楽鑑賞
 「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
 ①「夏の観能の夕べ」
 全9回(特別公演1回、一般公演8回)
- ②「冬の観能の夕べ」
 全5回 令和3年1月～3月の期間中 (土曜日)
 ※ H30年度冬の公演から、外国人鑑賞者をサポートするタブレット端末を導入
 (「加賀百万石文化めぐり」開催事業)
- 2 能楽体験
 「観能の夕べ」上演前に演目に関する体験を実施
 定員:20名/回(要事前予約、申込順)

会場 石川県立能楽堂

主催 いしかわの伝統文化活性化実行委員会

対象 一般

入場料

- ①「夏の観能の夕べ」
 特別公演 3,000円/回
 一般公演 1,000円/回
- ②「冬の観能の夕べ」
 前売り 1,000円/回
 当日 1,200円/回
- ③ 能楽体験
 無料(ただし当日の体験者に限る。)

施策・課題の状況						
施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開				評価	D
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開					
	指標	能楽堂入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	54,000	54,532	53,522	49,363	48,445	20,908

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	5,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	決算	3,500	8,050	5,325	3,316	5,596
一般財源	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		79,825	87,875	93,200	96,516	102,112

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、例年より公演数を減らした(14回→12回)ほか、能楽体験を中止したことにより、入場者数は減少したものの、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供しているほか、公演回数を確保することにより、能楽師の技術向上にも貢献している。 <「観能の夕べ」入場者数> R2: 1,596人(R1:3,596人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	今後も「観能の夕べ」を継続することにより、さらなる能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 伝統芸能技能向上支援事業費	事業開始年度 根拠法令 ・計画等	H25	事業終了予定年度		
		いしかわ文化振興条例		作 組 織 文化振興課	
				成 職・氏名 主事 安村 俊亮	
				者 電話番号 076 - 225 - 1371 内線 3854	

事業の背景・目的
 藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力でもある金沢芸妓による質の高い伝統芸能について、芸の披露の場を創出することにより、県民や観光客が気軽に鑑賞する機会の充実を図るとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

事業の概要

- 芸の発表の場の創出
 - (1) 事業名
金沢芸妓の舞
 - (2) 事業内容
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露する。
 - ①会場
県立音楽堂邦楽ホール和室
 - ②実施期間等
令和2年10月～令和3年3月の実施期間内に年33回開催(3茶屋街×11回)
 - ③開催時間
午後2時～3時(1時間程度)
 - ④出演
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
 - ⑤対象者
県民や県外からの観光客(各回定員50名程度)

※全33回のうち、邦楽ホールバックステージツアーを10回(月1～2回)実施
 (「金沢芸妓の舞」終了後、30分程度)

施策・課題の状況							
施策	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開					評価	D
課題	「加賀百万石文化めぐり」を通じた多彩な文化イベントの切れ目ない展開						
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数			単位	人	
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	112,000	108,895	139,645	111,603	121,012	31,681	
事業費							
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	3,800	3,800	4,000	4,000	4,600	
	決算	3,800	3,800	4,000	3,750	4,200	
一般	予算	0	0	0	0	0	
	決算	0	0	0	0	0	
事業費累計		13,300	17,100	21,100	24,850	29,050	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和2年度は例年に比べて開催回数が減少したが、県立美術館ホール(定員200人)を会場とすることで、1回当たりの平均入場者数は前年度を上回った。「金沢芸妓の舞」は、県民や観光客に、普段体験できない茶屋文化に触れる貴重な機会を提供しており、また、芸の披露の場を確保することにより、金沢芸妓の技能向上にも貢献している。 <開催回数・入場者数> R2:15回/899人(R1:23回/1,305人)				
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	多くの県民や観光客に、茶屋文化に気軽に親しんでもらうとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図るため、引き続き、支援に取り組む。 R3年度は、公演回数を増やす(15回→33回)とともに、県立音楽堂、県立美術館の両会場で公演することで、より多くの方に茶屋文化に触れる機会を提供する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 「いしかわジュニアアートステージ」開催費	事業開始年度	H30	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職・氏名	主事 滝沢 香織			
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3845			

事業の背景・目的
 本県文化の次代の担い手を育成するため、トップレベルの文化活動を実践している児童・生徒による「和」と「洋」の創意あふれるステージ発表や作品展示などを通して、多くの児童・生徒が刺激を受け合う場を創出し、今後の文化活動の更なる意欲の向上を図る。

事業内容

(1) 会場 県立音楽堂 邦楽ホール、JR金沢駅もてなしドーム地下広場

(2) 開催時期 令和2年12月

(3) 出演・出展内容

①ステージ公演 (県立音楽堂 邦楽ホール)

- ・分野 「和」箏曲、民謡、三味線、和太鼓など
「洋」洋舞(ダンス、バレエ)、ピアノ、合唱、吹奏楽、バイオリンなど
- ・公演 10～15分/団体 (7～8団体程度)
- ・講評等 著名な舞台関係者による講評
- ・交流 出演者同士の「和」と「洋」のコラボステージ (1～2組)

②作品展覧会 (JR金沢駅もてなしドーム地下広場)

- ・作品展示 全国高等学校総合文化祭出品作品等
- ・講評 各分野の専門家らによる講評
- ・交流 高校生による生け花や書道のステージパフォーマンスや、生け花、書道、似顔絵の体験
→6日間の開催に拡大 (R1:1日のみ)

(4) 出演基準
 全国的なコンクールや大会で入賞した団体・個人 (対象:小学生～高校生)
 (各部門の協会・連盟等からの推薦を要する)

(5) 幼児向け文化体験

- ・会場 音楽堂の練習室・控室等
- ・体験分野: ピアノ、和太鼓、ダンス、書道、絵画など
- ※「アートステージ」本番の鑑賞にもつなげ、文化活動をはじめのきっかけづくりとする。

(6) 新 能登地区でのミニイベント (アートステージイベントとして実施)

- ・開催時期: 令和2年11月
- ・会場: 七尾サンライフプラザ 多目的ホール
- ・内容: 作品展示 (一部)、ミニコンサート、パフォーマンス、子ども向け体験会など
- ※「アートステージ」の取り組みを能登地区へも波及させる。

施策・課題の状況					
施策	いしかわの優れた文化の裾野拡大	評価	D		
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大				
指標	兼六園周辺文化施設入館者数		単位	人	
目標値	現状値				
令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
913,000	906,757	862,986	976,144	823,786	400,646
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数		単位	人	
目標値	現状値				
令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
112,000	108,895	139,645	111,603	121,012	31,681
事業費					
(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算		7,000	7,500	8,000
	決算		7,000	7,500	8,000
一般	予算		7,000	7,500	8,000
財源	決算		7,000	7,500	8,000
事業費累計		0	7,000	14,500	22,500
評価					
項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	音楽堂(金沢市)で実施した本公演では、普段、同じ舞台で共演することがない様々な分野のトップレベルの児童・生徒が一堂に会する機会を創出することができた。 また、能登(七尾市)で新たにプレイベントを実施し、本県文化の裾野の拡大を図った。 ※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、いずれの会場でも、ステージパフォーマンスや幼児向け文化体験を中止<来場者数> 金沢会場(ステージ発表) R2:約500人(R1:約700人) 能登会場(ステージ発表) R2:約150人			
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	文化活動に親しむ子ども達を県内全域において増やし、本県文化の裾野の拡大を図るため、令和2年度に能登地区で実施したプレイベントを令和3年度は加賀地区で実施する。 また、参加者には、「いしかわジュニアアートステージ」本番を鑑賞してもらい、文化活動への意欲の向上につなげる。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 国民文化祭開催準備事業費	事業開始年度 R2	事業終了予定年度
	根拠法令 ・計画等	

作	組	織	文化振興課
成	職	氏名	主任主事 針貝 広人
者	電話番号	076 - 225 - 1324 内線 4342	

事業の背景・目的
国民文化祭は、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典であり、各種の文化活動を全国規模で発表、共演、交流する場を提供するとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用し、一層の芸術文化を振興に寄与するものである。

石川県では、平成4年秋に「第7回国民文化祭石川大会」を開催しており、令和5年春の新幹線県内全線開業を迎え、外国人を含めた観光客の更なる増加が見込まれるこの機会に、2回目となる国民文化祭を開催し、石川の多彩で質の高い文化をアピールし、県内各地で様々な文化イベントを展開し、「第二の開業効果」を県内の隅々にまで波及させていくこととする。

事業の概要

- 基本構想の策定
基本方針に関する有識者会議の設置、開催
※基本構想の県内、全国自治体等への周知
- 開催に向けた気運醸成
ロゴマークの公募
※気運醸成を図るために全国公募
- 先催県調査事業等
(1)先催県への視察、聞き取り調査
令和2年度：宮崎県、令和3年度：和歌山県、令和4年度：沖縄県

(2)文化庁主催会議や各種調整

<開催までのスケジュール(想定)>

R2 (2020年) 3年前	R3 (2021年) 2年前	R4 (2022年) 1年前	R5 (2023年) 開催年
基本方針に関する有識者会議設置 →基本構想策定	<ul style="list-style-type: none"> ・国実行委員会で基本構想承認 ・県実行委員会を設置、実施計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・国実行委員会で実施計画承認 ・プレイベントを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウントダウンイベント開催 <li style="border: 2px solid black; padding: 2px;">国民文化祭開催

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の裾野拡大				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	913,000	906,757	862,986	976,144	823,786	400,646
事業費						
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算					8,000
	決算					1,234
一般財源	予算					8,000
	決算					1,234
事業費累計			0	0	0	1,234
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和2年度においては、大会の名称を「いしかわ百万石文化祭2023」、キャッチフレーズを「文化絢爛」とするほか、各界各層からなる有識者会議において取りまとめた基本方針などを盛り込んだ、大会の基本となる基本構想を策定した。新型コロナウイルスの感染拡大により、先催県への視察が行えない等の影響があったが、ロゴマークの公募を開始するなど、情報発信に努めた結果、開催に向けた気運醸成に一定の効果があった。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	令和5年の開催に向け、幅広い県内の関係機関、関係団体が参画する実行委員会を設置し、大会の具体的なイベント等を盛り込んだ実施計画の策定に着手するほか、各種PRイベントの開催等の開催気運の醸成を図るなど、準備を本格化する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化活動支援事業費・若手芸術家活動支援事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令	いしかわ文化振興条例		
		・計画等			

作 組 織	文化振興課
成 職・氏名	主任主事 廣澤 剛志
者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3844

事業の背景・目的
 県内の文化団体が新たに実施する文化活動に対して助成金を交付することにより、文化の担い手である県民の自主的・主体的な文化活動を支援し、本県の優れた文化の更なる発展と裾野の拡大を図る。

事業の概要

事業名	文化活動支援事業	
	① 文化創造普及事業	② 地域文化活性化事業
対象事業	県全域を対象として文化活動を行う文化団体が実施する文化活動事業 (新規性のあるものに限る)	市町において文化活動を行う文化団体が実施する文化活動事業 (新規性のあるものに限る)
助成対象期間	最大3年間(初年度に全体事業を認定)	
	初年度に助成金を一括交付	助成金は毎年度交付
助 成 率	最大で全体事業費の1/2 <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は2/3 ※助成額は、次の①②のいずれか低い額 ① 助成対象経費 × 1/2 (又は2/3) ② 事業費 - 入場料収入等</small>	
	団体自己負担の1/2以上を地元市町が補助	
助成限度額	最大 300万円(3年間) <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は400万円</small>	最大 150万円(3年間) <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は200万円</small>

事業名	若手芸術家活動支援事業	
対象事業	県全域を対象として活動を行う文化団体に所属する概ね40歳未満の若手芸術家(個人又はグループ)が行う個展やコンサートなど <small>※所属する文化団体から推薦のある者に限る</small>	
助成対象期間	1年間	
助 成 率	最大で全体事業費の2/3 <small>※助成額は、次の①②のいずれか低い額 ① 助成対象経費 × 2/3 ② 事業費 - 入場料収入等</small>	
助成限度額	最大20万円	

これまでの見直し状況

平成30年度募集より、「子ども対象事業」及び「指導者育成事業」の支援を拡充するとともに、若手芸術家への支援制度を新設

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の裾野拡大				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和2年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	13,200	13,700	12,838	13,902	11,797	1,633

※いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
	決算	63,739	51,403	71,024	70,147	68,492
一般	予算	0	0	0	0	0
財源	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		125,270	176,673	247,697	317,844	386,336

評価	
項目	評価
事業の有効性	左記の評価の理由
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 文化活動・若手芸術家活動の広範な分野から創意溢れる様々な取組の応募があり、R2年度は55件(R1年度:51件)を事業認定・助成した。 助成事業には、マーチングバンドやクラリネット(音楽)、デジタルアート(メディア)など、昨年までの認定にはない新たな分野の取組が含まれ、多様な分野での活用が広がっており、文化団体の自主的・主体的な活動を促進し、本県文化の更なる発展と裾野の拡大に寄与している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 引き続き、文化団体や個人の自主的・主体的な活動の支援を行い、本県文化の更なる発展と裾野拡大を図る。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 子どものための音楽文化推進事業費	事業開始年度 H28	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等 いしかわ文化振興条例	

作 組 織 文化振興課
成 職・氏名 主任主事 松本 隼樹
者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
「いしかわ文化振興条例」の基本理念に基づき、本県の文化の裾野の拡大とさらなる高みを目指すため、洋楽(クラシック音楽)・邦楽を嗜む新たな県民の掘り起こしを図る。

- 事業の概要**
- 1 洋楽・邦楽リーフレットの作成・配布
 - (1) 内 容

普段、邦楽等に触れる機会の少ない子ども達を対象とした洋楽・邦楽の基礎知識等をまとめたリーフレットを作成し、配布する

 - ①洋楽
 - ・クラシック音楽とは？(歴史、楽器、編成等の基礎知識)
 - ・代表的な作曲家とその代表曲
 - ・コンサートに行くには？(服装、マナー等)
 - ・音楽堂、OEK紹介 など
 - ②邦楽
 - ・邦楽の歴史、楽器について
 - ・音楽堂邦楽ホール紹介 など
 - (3) 作成部数

各20,000部
 - (4) 配布先

県内小学校(6年生)、各市町、各種イベント、音楽教室等
 - 2 はじめてのコンサート開催(音楽文化振興事業団への補助金)
 - (1) 目 的

リーフレット等で興味を持った人に、実際にコンサートに足を運んでもらう
 - (2) 内 容

既存の音楽堂主催のコンサートのうち1公演を、初心者向けのコンサートとする
 - (3) 特 徴
 - ①リーフレット等を活用した丁寧なMC解説(楽器紹介、鑑賞マナーなど)
 - ②楽器体験コーナーの設置
 - (4) 開催回数

2回
 - (5) 出 演

MC、OEK、石川県ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブルほか

施策・課題の状況							
施策課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					評価	D
	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
		令和2年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		13,200	13,700	12,838	13,902	11,797	1,633
	指標	音楽堂入場者数				単位	人
	目標値	現状値					
		令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		258,000	246,883	321,184	255,959	260,592	50,282

※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
(単位:千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	3,000	2,500	2,300	2,300	2,300
	決算	4,067	2,495	2,497	1,709	2,299
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		4,067	6,562	9,059	10,768	13,067

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	普段邦楽やクラシック音楽に触れる機会の少ない子ども達を中心に、リーフレットの作成・配布やコンサートの開催により、邦楽やクラシック音楽の基礎知識等に触れる機会を創出し、音楽文化の普及啓発を図った。 <はじめてのコンサート入場者数> R2:418人(R1:新型コロナウイルスの感染拡大により中止)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	引き続き、リーフレットを活用した啓発やコンサート内容の充実により子どもたちが音楽に触れる機会を提供し、音楽を嗜む県民の裾野拡大に取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 子ども芸術鑑賞推進事業費	事業開始年度	S57	事業終了予定年度	
	根拠法令	いしかわ文化振興条例		
	計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職・氏名	主事 安村 俊亮			
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3854			

事業の背景・目的

県内の小中学生を対象に優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し、芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

事業の概要

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
 県内で8公演を実施 (公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託
 (小松市、輪島市、羽咋市、かほく市、白山市、野々市市、内灘町、志賀町)

- 2 スクールシアター(児童演劇公演)
 県内で9公演を実施 (公社)日本児童青少年演劇協会に委託
 (七尾市、珠洲市、かほく市、白山市、野々市市、川北町、内灘町、穴水町、能登町)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の裾野拡大				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和2年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	13,200	13,700	12,838	13,902	11,797	1,633

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	4,231	4,231	4,231	4,012	5,232
	決算	4,209	4,231	4,231	2,812	0
一般	予算	0	0	0	0	0
財源	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		301,738	305,969	310,200	313,012	313,012

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により事業の有効性についての評価が困難 ※すべての公演を中止
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	本物の芸術に触れる機会の少ない児童・生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。 また、開催希望数が増加するよう、市町担当者に当該事業の説明会やPRを行うなど、引き続き市町に対し積極的な働きかけを行う。

継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	県民移動能実施事業費	事業開始年度	H2	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主任主事 三浦 奈緒美	
							者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3854

事業の背景・目的
鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童・生徒等に生の舞台芸術にふれる機会を提供することにより、能楽愛好者の増加を図る。

事業の概要
県内市町にて2公演(1公演/1市町)下記事業を実施する。

内容
狂言1番、能1番
開催市町の児童・生徒を対象としたワークショップ

公演日、会場
① 11月20日(金) 小松市立東陵小学校
② (中止) 津幡町

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の裾野拡大				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和2年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	13,200	13,700	12,838	13,902	11,797	1,633

※～H26石川県文化振興基金事業
※H27～いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
(単位:千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	決算	3,000	3,000	3,000	3,000	1,500
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
財源		0	0	0	0	0
事業費累計		81,000	84,000	87,000	90,000	91,500

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 新型コロナウイルスの感染拡大により公演を1回中止したものの、「県民移動能」は、能楽の鑑賞機会の少ない地域に能楽師が出向き、児童、生徒等に生の舞台芸術にふれる機会や、能楽の体験の機会を提供しており、児童・生徒等が本県の豊かな古典芸能の理解を深めることに貢献している。 <鑑賞者数> R2:86人(R1:568人) <公演回数> R2:1回(R1:2回)
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	事業開始年度	H9	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等	・いしかわ文化振興条例 ・石川県バリアフリー社会の推進に関する条例(H9.3)	成 職・氏名	専門員 浦 育世	者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853

事業の背景・目的
 障害のある方でも楽しめる文化展の開催を通じて、より幅広い層の県民に石川の文化にふれる機会を提供することで、障害の有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を実現する。

事業の概要

1 事業名 ふれてみるいしかわの文化展

2 会 場 石川県立歴史博物館

3 期 間 令和2年12月3日(木)～9日(水) 7日間

4 対 象 主に障害者の方(視覚障害者や車椅子使用者等)、一般県民

5 内 容 ふれてみる彫刻展、音楽とおはなしの会・ミニコンサート、クイズコーナー、彫刻ワークショップ 等

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の裾野拡大				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和2年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	13,200	13,700	12,838	13,902	11,797	1,633

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業

事業費					
(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費 予算	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
事業費 決算	1,000	1,000	1,000	1,000	84
一般 予算	0	0	0	0	0
財源 決算	0	0	0	0	0
事業費累計	27,364	28,364	29,364	30,364	30,448

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	文化展は、著名な彫刻家の作品をじかに触れる彫刻展など、障害のある方も含め、幅広い層の県民が文化芸術に親しむ機会となっており、文化事業のソフト面でのバリアフリー化の推進に資するものである。 R2年度は新型コロナウイルスの感染対策のため、県立盲学校への出前形式で彫刻展を開催し、例年より規模は縮小したものの、「触れることで質感や素材の違いなどが分かり、嬉しかった。」といった声があるなど、好評を得た。 <参加者数> R2:37人(R1:2,086人) <うち視覚障害者数> R2:20人(R1:34人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	文化展は、障害のある方にとって、芸術文化に触れることができる貴重な場となっていることから、障害者団体の要望等を踏まえ、内容等の充実を図りながら、引き続き開催していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度	H14	事業終了予定年度	
	根拠法令	いしかわ文化振興条例		
	・計画等			

作成者	組織	文化振興課					
	職・氏名	主任主事 北川 寛基					
	電話番号	076	-	225	-	1372	内線

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大

- 2 事業内容
 - (1)コンサートホール(12事業)
 - ・伝統芸能+オペラ
 - ・洋邦&邦楽のコラボレーション・コンサート
 - ・ランチタイム、アフタヌーンコンサート(パイプオルガンや室内楽の公演) 他
 - (2)邦楽ホール(6事業)
 - ・音楽堂寄席(お昼のワンコイン寄席と本格的な寄席・年1回、昼夜2公演)
 - ・人形浄瑠璃文楽(日本の伝統芸能を紹介するシリーズ・年1回)
 - ・芸のかたち(日本古来の芸能による雅な舞台・年1回) 他
 - (3)交流ホール(3事業)
 - ・ふれあい伝統芸能ランド(伝統芸能に直接触れることができるワークショップ・年1回)
 - ・音楽堂室内楽シリーズ(各種室内楽の公演・年3回)
 - ・カルチャーナビ(洋楽監督によるクラシック音楽講座や芸能講座・年7回)

計 21事業

3 総事業費
 178,000千円
 うち県補助金 15,000千円

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の裾野拡大				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	258,000	246,883	321,184	255,959	260,592	50,282

事業費						
(単位:千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
	決算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
一般	予算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
財源	決算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
事業費累計		154,880	169,880	184,880	199,880	214,880

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一部収容率50%の座席で実施するなどの制限があったため、参加者数は減少したものの、県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、石川の音楽文化の振興に寄与した。 <事業数・参加者数> R2:20事業/12,586人(R1:18事業/25,330人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、かつ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度 H2	事業終了予定年度
	根拠法令 いかわ文化振興条例 ・計画等	

作成者	組 織 文化振興課	職・氏名 主任主事 北川 寛基	電話番号 076 - 225 - 1372	内線 3839

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や、県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

事業の概要
① 芸術文化創作事業
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして著名作曲家にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。(委嘱作曲家:酒井健治)

② 特別文化事業の開催
バレエやオペラなど、クラシックコンサート以外の音楽愛好家も対象とした音楽文化の普及事業や、他劇場との共同制作、芸術文化創作事業により作曲された新作現代曲を披露する演奏会を開催する。
・ベートーヴェン生誕250年記念 ベートーヴェン交響曲全曲演奏企画
日時:令和2年10月～ 会場:県立音楽堂

③ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。

④ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年から中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。

⑤ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。

⑥ 新人登竜門コンサートの開催
オーデション:管・弦・打楽器部門 審査委員:川瀬賢太郎(OEK常任指揮者) 他
演奏会:R2.5.17(R1選考:ピアノ部門) 県立音楽堂

補助金額 10,000千円 (石川県・金沢市 同額補助)

これまでの見直し状況
※ H17年度から地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の裾野拡大				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	258,000	246,883	321,184	255,959	260,592	50,282

事業費						
(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	決算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
一般	予算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
財源	決算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
事業費累計	345,100	355,100	365,100	375,100	385,100	

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により新人登竜門コンサートやオーケストラ実践講習会が中止又は延期となったものの、その他の各種演奏会の開催により、オーケストラへの親しみと理解を深めるとともに、ジュニア・オーケストラ等の育成を通じて、若手演奏家の音楽資質の向上に寄与した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	音楽文化の普及向上を図るため、引き続き本事業を実施し、県民のオーケストラへの親しみや理解を深めるとともに、次世代を担う若手演奏家の育成に取り組む。